



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

92.3.18 No.3558

大幅賃上げ獲得！本当の時短実現へ！ 92春闘の勝利をつかみとろっ！

動労総連合 九二春闘要求骨子

- ①、要求額 42,000円
アンケート平均42,220円
- ②、55歳以上の基本給の引き上げ
- ③、時短要求
※動力車乗務員の労働時間を
6時間30分とすること
※年間休日数を108日とすること
- ④、第二基本給の廃止
- ⑤、割引証(購入券)の枚数拡大
- ⑥、割り増し賃金について
150/100とすること

九二春闘は、いよいよ決戦段階に突入している。日経連は、一月二二日の臨時総会の中で、今春闘の指針を、「労働問題研究委員会報告」として採択した。

「報告」の第三章が、資本側からする春闘方針である。

この、第三章「労働時間、賃金と新しい人事労務管理の展開」では、三つのことが主張されている。

その第一では、「ゆとり・豊かさ」の実現を主張している。

このスローガンは、「連合」も全く同じなのだ。日経連の主張では、日本の賃金水準は世界最高水準であるが、「ゆとり・豊かさ」が実感されないのは、物価高、土地問題、長時間労働に問題があると規定している。

しかしながら(別表一)のように、「経済大国」を標榜しながら、日本の賃金水準は極めて低いのだ。

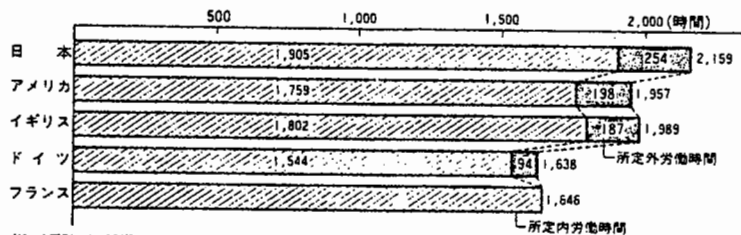
さらに(別表二)で見ると、長時間労働が強要されるだけでなく、全産業にわたるサービス残業には全く触れられていない。

第二は、「総労働時間の短縮は、労使の最重要課題」としている点である。

この時間短縮の基本的考え方は、①時短は賃金と同様、生産性向上の結果配分であること、したがって賃上げと時短のバランスを十分考慮すること、②省力化や経営効率向上を計画的に推進すること、③年間の総労働時間で考えること、④行政指導でなく、労使の話し合い・協力によって決める

(別表2)

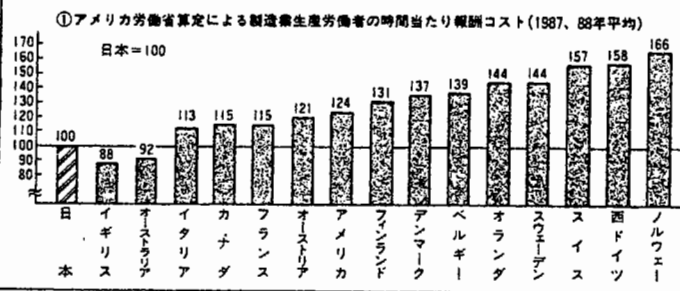
労働時間の国際比較



(注1)原則として製造業生産労働者についての、1989年の数字である。
(注2)フランスの所定外労働時間は不明である。
資料：労働省労働基準局賃金時間部統計による。EC及び各国資料。

(別表1)

世界一にほど近い日本の名目賃金



①アメリカ労働省算定による製造業生産労働者の時間当たり報酬コスト(1987、88年平均)

としている。その具体的手段として、「残業の圧縮」「週休二日制の推進、有給休暇の計画的取得」「変形労働時間制、フレックスタイム制の導入」

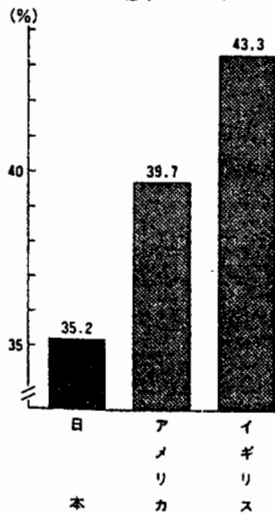
△制の導入」「長期リフレッシュ休暇の導入」をあげている。

要は、時短をして欲しいければ、生産性を上げ、労働密度を高め、企業の閉などときに一斉に休めるとし、一日当りの労働時間短縮は認めないと言ふことなのだ。

一方「連合」は、時短が「労使の最重要課題」と位置づけられたことを、「画期的なこと」と賛美し、「政府・労使がともに力を合わせ、適切な対応をとれば、景気調整局面を克服できる」などと

(別表3)

付加価値中の労働分配率(1985年)



資料：基本法「国際比較 日本の労働者」より作成

(別表三) それだけ労働者から、奪い、掠め、絞りとった

日本の労働分配率は、他の資本主義国よりも低く、低下傾向であるのだ。

大幅賃上げの獲得へ！本当の時短を実現しよう！

さらに労働分配率の問題についても、「世界最高の資本装備率を維持するためには、高い資本分配率が必要であり、労働分配率が低いのはやむをえない」としていることだ。

これでは敗北の歴史を繰り返かえすのみである。動労千葉は、九二春闘を真に労働者が安心して働ける、労働条件の実現へ向け、現在最も劣悪な環境の下にあるJRから、その悪の元凶である「JR体制」の打倒へ向けて、九二春闘を清算事業団闘争と固く結合させ闘いぬくものである。

「ペアはゼロ、定昇が基本、初任給は据え置き」だと言ふのだ。

これで、「ゆとり・豊かさ」と言ふのだから、驚く他ない。

連合の春闘方針は、「八%中心、二万円」であり、時短と制度・政策要求である。

「ペアはゼロ、定昇が基本、初任給は据え置き」だと言ふのだ。

放業している。